

第6回養老町子ども議会を開催

令和4年 11月 24日 午後4時より 養老町役場4階議事堂において



第6回養老町子ども議会が養老町役場議事堂で開催された。

高田・東部両中学校の3年1名ずつが議長となり、また、各クラスの代表12名が議員になり、養老町の将来について自分たちの考えを提案発表した。

生徒は町の課題をあげ、アンケート調査や、ポスター作成などに取り組んできた。

昨年に引き続き今年も、新型コロナウイルス防止のため、各中学校2年生の生徒及び先生は、議場の傍聴席で間隔を置いて傍聴をし、保護者及び議員は、4階大会議室でライブ映像により傍聴した。



中学生は各クラスで話し合いを重ね、まとめた意見や提案を発表した。それに対し、町の担当課より現在取り組んでいることを踏まえ、参考にできることなど感想を述べた。

中学生の主な意見・提案

- ・養老町の豊かな自然を維持するため、ゴミのポイ捨てに関する町民の意識改革を促すポスターや、清掃活動などを提案。
- ・誰もが自分らしく生きやすい養老町を目指し、妊婦さんの目線から、安全に暮らせる環境作りと、LGBTQのことを知っ



- ・てもらう冊子を作成。
- ・年齢や性別、障害の有無にかかわらず楽しめるスポーツイベントの開催。
- ・幅広い年齢層が楽しめる、体を動かす機会を増やすため、バルシューレを推奨する。
- ・より多くの外国人環境客や移住者を増やすため、英語版ハザードマップと英語版観光パンフレットを作成。
- ・情報化社会、養老町の知りたい情報をすぐに閲覧できるよう工夫したSNSの活用。
- ・養老町の代表産業である食肉産業を、中学生の視点で制作し、動画で配信。



各クラスで分析・整理をし、自分たちで作成したPR動画やポスター、調査結果などを基に、堂々とプレゼンし、どの生徒も緊張しながらも、説得力のある発表をした。

中学生の感想

- ・議会というものが、どれ程町にとって大切なものなのか、身体で感じる事ができました。
- ・家に帰ってすぐに養老町公式LINEに登録しました。
- ・まず、養老町を知ることから始めたいです。



- ・まちをより良くするためには、柔軟な発想や、物事を多角的に視ることが大切だと学ぶことができました。
- ・養老町の政治について興味が薄かったのですが、議会を体験して政治を身近に感じる事ができました。
- ・町長が仰られた「大人も子どもも関係ない議会」のように、分け隔てのない公平さを意識していきたい。
- ・1つでも町の政策として反映されると良いと思います。

あれからどうなったんやあ〜 シリーズ 105

このシリーズは、過去の定例会（今回は令和3年12月議会）での一般質問に関して、その後の状況をお知らせするものです。

福祉推進員制度とは、高齢者等の気がかりな人を対象とした普段の見守り、必要に応じた困りごとの聞き取り、問題事例を発見した場合に民生・児童委員に連絡する等、身近な住民の福祉ニーズを把握していただくために設けた制度です。

町では、令和4年度からこの事業を町社会福祉協議会に委託し、笠郷地区をモデル地区として始めました。笠郷地域自治町民会議から推薦され、町社会福祉協議会から委嘱された7名の福祉推進員が、民生・児童委員との合同ミーティング、県及び町社会福祉協議会との見守り活動支援の情報交換会の実施、友愛訪問、また、介護予防リーダー研修への参加といった活動を笠郷地区の関係団体と協力・連携しながら実施されています。

今後は、より細やかな活動ができるように、来年度、さらに7名を推薦いただき、14名体制で活動していただけるように準備をすすめています。

問 「福祉推進員制度は」

こうなりました



議会に対する意見

シリーズ 43

住民の声

このシリーズは、町内の各種団体の代表や副代表等の方へ、編集委員が意見をお聞きし、その記事を掲載するものです。

町内在住 K・Mさん

昨年は「戦」の多い年であった。ウクライナ戦争に始まり各種スポーツ大会に至るまで、悲惨な戦争においては、いつまで続くことか。我が国においては、今年には統一選挙もあり、ある意味「戦」である。我が町に於いては人口減少も甚だしく、時の流れと言えばそれまでかもしれないが、「議員定数削減」住民アンケートの結果、賛成多数であったとのこと。諸物価高騰の折から経費削減はある意味必要かもしれません。でも、それで住民の声が行政に届くのかいささか疑問である。町民憲章にあるように、お年寄りが豊に暮らせるまちに、若者の住み良い町にして頂きたいものです。